

## IV章 総合的な学習の時間の取り組み

### 1 基本的な考え方

#### (1) 今、求められている総合的な学習の時間

総合的な学習の時間特有のねらいは、「自己の生き方を考える」ことである。その「生きる力」を育てることをねらいとした総合的な学習の時間に、今、何が求められているのだろうか。

昨年10月26日付けで取りまとめられた中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」には、「確かな学力」を育成し、「生きる力」をはぐくむという基本的な考え方を引き続き重要視することを前提とした上で、実社会とのかかわりの中で生きる力、いわゆる「人間力」を豊かに育てることが改革の目標であると謳われている。

その上で、同答申では総合的な学習について、次のように述べられている。

総合的な学習の時間については、大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況も見られる。…中略…思考力、表現力、知的好奇心などを育成する上で総合的な学習の時間の役割は今後とも重要であるが、同時に、授業時数や具体的な在り方については、各教科との関係を明確化するなど改善を図ることが適当である。 同答申「第1章(2)イ 学習指導要領の見直し」より

さらに、特に「英語教育」と「情報リテラシーを高める教育」について、下記のように充実を図ることが求められている。

…前略…グローバル社会に対応し、小学校段階における英語教育を充実する必要がある。具体的な実施方法については専門的な検討が必要である。さらに、社会のIT化に対応し、学校の情報環境を整備し、情報リテラシーを高める教育を充実することも重要である。 同答申「第1章(2)イ 学習指導要領の見直し」より

すなわち、創設以来繰り返し述べられている総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、「人間力」をはぐくむという視点からこれまでの総合的な学習を見直し、教科との関連を考え、さらに、「英語教育」や「情報リテラシーを高める教育」等、時代の要請に応えた総合的な学習のカリキュラムの再編が求められているのである。

#### (2) 本校の総合的な学習の時間

##### ① 総合的な学習の時間の構成

本校の総合的な学習の時間は、「未来学習」と「英語学習」より構成されている。

○未来学習・・・実社会において現代的な課題に向き合い、追究していく中で自分の生き方を見つめ直し、人の生き方に学んだり未来の在り方を提言したりすることで、社会に働きかけていくことをめざす学び

これまで取り沙汰されてきた環境や人権、福祉といった課題に加え、これからの社会に必要なと考えられる課題として、「英語」「情報リテラシー」「キャリア」「食」「法」「シチズンシップ」「安全」「金融」等の教育が挙げられる。これらを始めとする現代的な課題は、益々増加の一途を辿っている。

生涯にわたって学び続ける力を育成するためには、上記のような子どもたちの目の前で起き

ている事柄や実社会と直結している課題と向き合わせる必要がある。これらの課題は、子どもの力では容易に解決し得ないことも多いが、たとえそうであっても自分なりに判断し、解決していこうとすることが大切なのである。

このように、実社会の中で現代的な課題に向き合わせていくことは、自らの行動が社会に深くかかわっていることを実感させ、社会の成員として、責任ある行動を起こしていく「人間力」を育成するための第一歩であると言えよう。

○英語学習・・・国際理解とコミュニケーション能力の一環として、総合的な学習の時間に位置付けるが、言語教育としての立場から未来学習とは袂を分つ。しかし、学習内容によっては未来学習と関連付けながら、展開していくこともある。

将来、子どもたちを国際社会に生きる日本人として育成していくことを考えると、グローバルな視点からの学習も必要である。

子どもは、共に競い合ったり認め合ったりすることを通じて、自分のよさや課題等、自己の特性を理解する。そして、自分を知って初めて自分を生かす道、すなわち自己の生き方を探ることができるのである。しかし、少子化や核家族化が進む中、子どもたちが年齢や学年、学校種を超えて交流する機会が少なくなっている。つまり、自分とは特性の違う他者とかがかわる経験が少なくなっているのである。そのため、自分の特性を生かす夢をもてなかつたり、自己中心的な考え方に陥ったりするといった問題が起きている。私たちは、違いを認め合い共に生きる「共生」の意識を強化する必要があると考えた。

そこで、自分との違いに気付き、違いを認め合う経験を積ませるには、異文化に触れさせることが有効と考え、英語学習を導入した。そして本年度は、国際理解とコミュニケーション能力育成の一環として、英語学習を総合的な学習の時間に位置付けた。よって、本校の英語学習は、将来、国際人として外国の方と自然なかかわりを図るために役立つものとして生かされるだけでなく、「共生」の意識を強化し、自己の生き方を考えることにも通じるものである。

なお私たちは、未来学習と英語学習の学びが子どもたちの将来において融合されるのではないかと考えている。前述した通り、未来学習では、すぐに答えの出ない現代的な課題を学びの対象としている。また、国際共通語とも言える英語を学ばせることは、単なる第二言語の習得に留まらず、未来において現代的な課題を解決するために役立つことを期待しているのである。

## ② 時間運用

本校の総合的な学習の時間は、通年ユニット\*と半期ユニットに分けている。未来学習は、前期35時間（高学年は40時間）、後期35時間の年間2ユニット、英語学習は、週1回の通年ユニット（35時間）からなる。なお、未来学習においては、内容や実態によって2ユニット間の時間配分に軽重をかける等、弾力的な時間運用を図ることにしている。

前期ユニット35時間（高学年40時間）	後期ユニット35時間（高学年35時間）
通年ユニット「英語」35時間	

### <ユニット配当時間>

※ ユニット・・・本校の総合的な学習の時間におけるひとまとまりの学習のこと